



**Q** 小学6年の息子は困ったら親が助けしてくれると思っ  
ているようで、私も叱りながら正しい手をかけてしまいま  
す。

**A** 「あなたはどう思う？」と聞くなどして先回りしないよう  
にしましょう。子育ては「待つ」ことの連続です。

### 親離れして行く時期

最近の親子関係に関する意識調査では、子供の反抗期が目立って少なく、何でも話せる友達親子が多いというのが特徴です。

子供の自主性や気持ちを尊重することで、いい意味では、親にカウンセリング・マインドが備わってきたのでしょう。よくない意味では、子供に嫌われたくないから嫌がられるようなことは言わない、という親御さんもあることです。親としては、「是は是、非は非」と、メリハリのある対応をしたいものです。  
小学校高学年では、自分のこ

とや将来に関心が出てくる頃です。この時期、親への依存度が下がって行くのが自然ですから、そうでなければ家族関係を振り返ってみることです。

### 「待つ」ことが子育て

「自分でやりなさい」と言いながら、手は勝手に動いて世話を始める親御さんもいます。口にしたら言行一致で、後は見守るようにならなさい。

子供は育つ力を内に秘めており、親はそれを引き出すためにほんの少しお手伝いするだけ。子供を信じて「待つ」。親が忙しくて手をかけられないぐらいが、

ちょうどいいのです。

ではどの程度、かかわったらいいのか。子供をよく見ていると、「まあ元気にやっているから、この距離感ならいいだろう」という線が見えてきます。親の力です。育児書などは横に置いて、目の前の子供の行動から学ぶことです。

「どう思う?」「なぜそう思うの?」などと、関心を持って聞いてあげる。途中でやめなかつたら、「えらいね。どうしてやめなかったの?」でもいい。十中八、九分は聞き役になると、子育ての喜びが自然に湧いてきますよ。